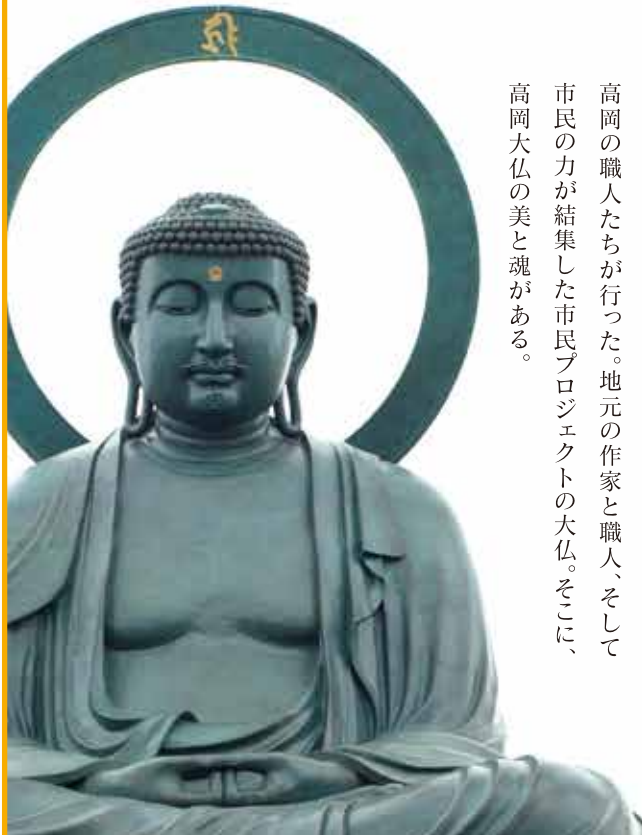


高岡と文化財

高岡大仏（銅造阿弥陀如来坐像）



やさしいお顔をつくった若き原型師。

高岡大仏の歴史は古いが、かつては木像で何度も焼失している。明治33年、高岡を襲った大火で焼き尽くされた時、市民は銅製の仏像をつくることを決める。そして、原型を地元の27歳の彫刻家、中野双山に依頼した。双山は、全国の仏像を見て歩き、高岡大仏の穏やかな顔を構想したという。頭部の原型が完成し、鑄造を終えたのは5年後（大正7年）。双山は、15年余りの歳月をかけ、すべての原型を作り終えた。

職人たちの心意気がつくらせた。

しかし、資金難などで製造が進まない。昭和8年、ようやく高岡大仏は完成する。多くの市民が寄進し、職人たちは、今で言うボランティアで参加した。古式鑄造法（焼型重ね吹き技法）で鑄造し、すべての工程を高岡の職人たちが行った。地元の作家と職人、そして市民の力が結集した市民プロジェクトの大仏。そこに、高岡大仏の美と魂がある。



〔高岡市指定文化財〕

総高15.85m 重量65t
平成19年に大修理が行われた

(右) 台座下の回廊
(左) 正面入口より

●高岡市大手町11-29 JR高岡駅から徒歩10分

※焼型重ね吹き…中子原型の表面をブロックに区切って、下段から順に重ねるように鑄造していく方法

高岡への交通アクセス

●東京首都圏から

〈飛行機〉羽田空港 — 1時間 富山空港 — 40分 高岡 = 1時間40分
全日空 バス

〈JR〉 東京駅 — 上越新幹線 越後湯沢 — (はくたか) 高岡駅 = 3時間23分
ほくほく線 北陸線経由

〈自動車〉 練馬IC — 関越自動車道 (246.1km) 長岡JCT — 北陸自動車道 (218.0km) 小矢部・砺波JCT — 能越自動車道 (13.7km) 高岡IC = 約6時間

〈自動車〉 練馬IC — 関越自動車道 (78.9km) 藤岡JCT — 上越自動車道 (204.7km) 上越JCT — 北陸自動車道 (148.1km) 小矢部・砺波JCT — 能越自動車道 (13.7km) 高岡IC = 約5時間30分

●大阪から

〈JR〉 大阪駅 — (サンダーバード) 高岡駅 = 2時間55分
湖西線・北陸本線

〈自動車〉 吹田IC — 名神高速 (109.5km) 米原JCT — 北陸自動車道 (203.3km) 小矢部・砺波JCT — 能越自動車道 (13.7km) 高岡IC = 約4時間

●名古屋から

〈JR〉 名古屋駅 — (しらすぎ) 高岡駅 = 3時間12分
北陸本線

〈自動車〉 小牧IC — 名神高速 (56.4km) 米原JCT — 北陸自動車道 (203.3km) 小矢部・砺波JCT — 能越自動車道 (13.7km) 高岡IC = 約3時間30分

〈自動車〉 小牧IC — 名神高速 (12.9km) 一宮JCT — 東海北陸自動車道 (184.8km) 小矢部・砺波JCT — 能越自動車道 (13.7km) 高岡IC = 約2時間40分

表紙の写真



金屋町通りの石畳

金屋町通りは、平成元年度から4年度に行われた「金屋町通り路面整備事業」により、御影石を敷いた美しい石畳の通りとなった。石のなかには銅片が散りばめられ、この町のルーツであり、誇りとする金属への思いが伝わってくる。(P8の記事をご参照ください。)

写真提供・取材協力 (50音順・敬称略)

アツシア・ケッタ
(PAデザイン/フランス)

天野漆器株式会社

荒井 恵梨子

大久保 敦
(日本貿易振興機構 富山県情報センター所長)

大熊 敏之
(富山大学大学院芸術文化学研究所 准教授)

暮らすひとと暮らすところ

株式会社 関菊

高岡市美術館

高岡商工会議所

高岡銅器協同組合KANAYA事務局

株式会社 高田製作所

株式会社 タカタレムノス

株式会社 竹中銅器

株式会社 テフカデザインズ

株式会社 ナガ工

中島 ゆり恵

株式会社 能作

ハヤシ製作所

万葉線株式会社

有限会社 モメンタムファクトリー・Orii

ローレイ・ロワース

(ニューアーク美術館/アメリカ)

心、
伝え継ぐ。

宗教用具・美術品
株式会社 関菊

〒933-0946 富山県高岡市昭和町3-1-10
TEL 0766-21-1313(代) FAX 0766-25-2633

オンラインショッピング「ここかしこ」<http://kokokashiko.jp/shop/>